

小田マップ

おだ

歩いて発見!

この地には、鎌倉時代から戦国時代にかけて
茨城南部に勢力をもった小田氏の居城、小田城があり、
町内には、堀や土塁の名残が見られる。

また、鎌倉時代に関東での
真言律宗の布教の拠点として知られた
極楽寺由来の石造美術品も点在している。

標高461メートル、つくば市で二番目に高い山、
宝篋山を北に仰ぎ、南に桜川が流れる。



歩いて発見! 小田マップ

2016年3月発行(第四版)

この地図について

2006年10月28日、アースデイつくばの合同企画「歩いて発見! 小田めぐり」の記録より作成しました。古い歴史のある町並みや宝篋山の谷津田を、講師の井坂敦実先生にお話を伺いながら、18名の参加者と共に歩き、知見を深めました。旧道や自然、史跡を見つけることで、先人の自然とつきあう生活スタイルを見直すきっかけになればと思います。お気づきの点がありましたら、アースデイつくば事務局までご連絡ください。

●参考文献

『いまに残る郷土の文化遺産 つくばの古絵図』
(財)日本地図センター、2006年発行
『自然と歴史 つくば市小田地区』
NPO法人小田地域振興協議会、2006年発行

●監修/井坂 敦実(郷土史研究者)

●注意

建物や遺構の多くは個人の所有地であり、寺院は地域の大切な場所。訪れる時は、地域の方々の生活の迷惑にならないようお気をつけください。



交通

【つくバス】つくバスはつくば市のコミュニティバスです。
電話029-883-1111(代)つくば市交通政策課
●つくバス小田シャトル(約40分間隔で運行)
TXつくば駅・つくばセンター発
→小田東部・小田中部 下車

【関東鉄道バス】

JR土浦駅またはつくばセンターより筑波山口・下妻・岩瀬方面行きのバスに乗り、バス停「西町入口」「小田」「小田十字路」「小田今宿」「小田入口」のいずれかで下車。

【つくばりんりんロード】

筑波鉄道廃線後に整備した岩瀬土浦自転車道。旧ひたちおだ駅跡には、現在ホーム跡のみが残る。

【自動車】

南北に走る国道125号線の交差点「小田十字路」が目印。西へ曲がって八坂神社を経て史跡案内板のある十字路を右折。500m先のT字路を左折すると、旧ひたちおだ駅跡があり、数台駐車できる。また、小田十字路より東へ曲がり、100m先の細道を左折すると、宝篋山小田休憩所の駐車場がある。

Think Globally, Act Locally.

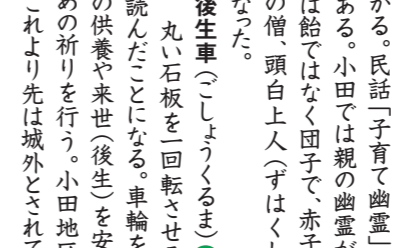
編集・お問合せ:アースデイつくば実行委員会
http://aruite.jimdo.com/
歩いて発見!マップ 市内7エリア公開中
●筑波山麓 ●神郡 ●北条 ●小田
●金田・桜川 ●谷田部 ●茎崎

龍勝寺(りゅうしょうじ) 16
曹洞宗の寺で、佐竹氏の家臣、梶原政景が在城の頃に再建されたと言えられる。山門は、江戸時代の作で、禅宗寺院にふさわしい八脚楼門。市指定文化財。
長久寺(ちようきゅうじ) 17
室町時代に茨城県那珂郡に創立された真言宗の寺で、佐竹氏家臣、小場義成と共に移ってきたと伝えられる真言宗の寺。鎌倉室町時代の密教絵画を所蔵する。
解脱寺(げだつじ) 18
戦火により小田橋の近くに退転し、廃城後に現在の場所に移された浄土宗の寺。本尊の阿弥陀如来立像は室町時代末期の作。市指定文化財。
天満神社(てんまんじんじや) 19
鳥居は、その銘により江戸初期の建立であることが分かる。
八坂神社(やしかじんじや) 20
廃城後の小田は、帰農した武士などにより農村となる。一村の氏神社として江戸初期に創建された。境内には極楽寺由来の古碑と不殺生界碑がある。神社北側より西へ延びる小道は堀跡、神社より東へ延びる道沿いは「下見世屋



（しもみせや）」と呼ばれた商店街で、古銭が発掘された。
宝篋山旧参道入口 21
宝篋山への正式な参道は、前山の北西にある富岡山を經由していたといわれる。現在、国道二五号線により分断され、途中は藪に覆われているが、いくつかの石段も確認されている。宝篋山の山頂には浅間神社が祀られており、参道入口には「富士大神」と書かれた石柱がある。
旧参道入口横の個人宅の庭先にある、二体並んだ地藏像が彫られた丸い石。かつては道路沿いにあったものを移設した。銘より一五九四年(文禄四年)と分

る。二体並んだ地藏像が彫られた丸い石。かつては道路沿いにあったものを移設した。銘より一五九四年(文禄四年)と分



▲小田地区に並ぶ庚申塚や石碑



▲後生車

かる。民話「子育て幽霊に似た伝説がある。小田では親の幽霊が買いにきたのは給ではなく団子で、赤子はやがて有徳の僧、頭上人(ずはくしようにん)となった。
後生車(ごしょうくるま) 23
丸い石板を一回転させると、経を一回読んだことになる。車輪を回して死者への供養や来世(後生)を安穩に過ごすための祈りを行う。小田地区の端にあり、これより先は城外とされていた。



▲磨崖不動明王立像

また、室町時代以降の庚申塚や石碑が多く建立されている。
磨崖不動明王立像 24
(まがいぶどうみょうおうりつぞう)
前山の中腹、八幡神社の東に、花崗岩の巨石の高さ6mほどの壁面に彫られている像。平安時代の作とされる。風化による剥離がひどいが、輪郭などから当時の高い仏教文化の存在を推測させる。普段は御簾がかかっているが、御不動様の縁日である二月二十八日に行われる御



小田の行事
●小田祇園祭
七月二十日
前後の土曜日に行われる。円寿院薬師堂より獅子が、八坂神社より神輿がねりあるき、両者がぶつかりあい、うまく合体するまで祭が行われる。

また、室町時代以降の庚申塚や石碑が多く建立されている。
磨崖不動明王立像 24
前山の中腹に、八十八体の石仏像と御堂がある。すべての像を拜んでまわると、四国八十八路の御利益がある。かつては講が行われ、葬儀のたびに集会が行われていた。極楽寺があった当時、このあたりに寺があったとされ、「諏訪下」「北斗」の地名が残る。



7月20日
前後の土曜日
に行われる。円
寿院薬師堂よ
り獅子が、八坂
神社より神輿
がねりあるき、
両者がぶつかり
あい、うまく合
体するまで祭
が行われる。

7月20日
前後の土曜日
に行われる。円
寿院薬師堂よ
り獅子が、八坂
神社より神輿
がねりあるき、
両者がぶつかり
あい、うまく合
体するまで祭
が行われる。